

スプレー缶の危険性！！

Case.1

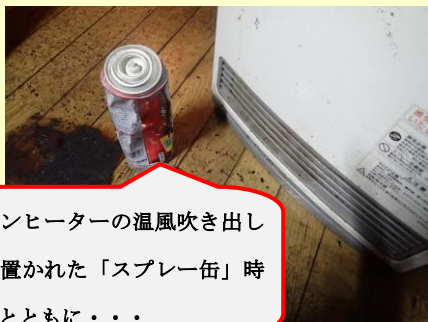
火災事例

どこの家庭にもひとつはある「スプレー缶」、使い方や保管方法を誤るととても危険な事態になることがあるのです。今回、紹介するのはある家庭で起きた火災事例です。

寒さ厳しい2月に、とある家庭の台所で使用していたガスファンヒーターの近くでスプレー缶が破裂し、火災が発生しました。

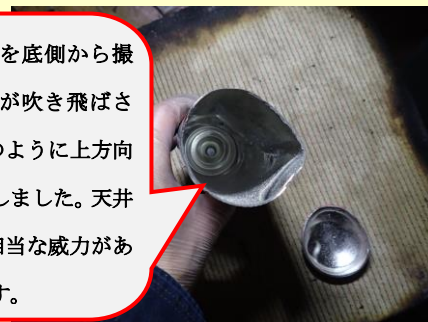
火災に至った経緯ですが、スプレー缶は使用していたガスファンヒーターの温風の吹き出し口の前に置かれており、時間の経過とともに温風でスプレー缶がどんどん温められ、これにより缶内のガスが膨張し圧力が上がり、やがてスプレー缶の耐圧の許容を超え缶の底から破裂しました。

また、スプレー缶の内容物として可燃性ガスが高圧で充填されていることから、破裂と同時に可燃性ガスが噴出し、ガスファンヒーターの火に引火し爆発的に燃焼したものです。これにより建物の一部が破損・焼損し、2名の方が負傷されました。



ガスファンヒーターの温風吹き出し口の前に置かれた「スプレー缶」時間の経過とともに・・・

破裂後のスプレー缶を底側から撮影しています。底蓋が吹き飛ばされ、本体はロケットのように上方に飛び天井板を貫通しました。天井の損傷の状況から、相当な威力があったものと思われます。



今回の事例は、使用方法を誤ったことによる事故ではなく、置いた場所（保管場所）を誤ったことにより発生しました。スプレー缶は可燃性ガスが高圧で充填されているものがほとんどで、熱による破裂の危険性はスプレー缶の注意書きにも記載されております。注意書きを守っていただければ事故は防げたと考えられます。ちょっとした不注意で起こった事例ですが、負傷者が2名発生し、建物にも多大な損害を与えました。最悪の場合、人の命に関わることもありますので、各家庭で間違った使用及び保管をしていないかの再確認をお願いします。

スプレー缶の注意事項

【保管場所】

- 温度が高くなるとスプレー缶の内圧が高まり破裂するおそれがあるため、自動車内や直射日光の当たる場所、暖房器具などの近くには置かない。
- スチール缶の場合、湿気の多い場所（台所・脱衣所等）で長期間保管していると缶が錆びて破裂するおそれがあるため、多湿にならない場所を選び劣化の前に廃棄をすること。

【使用方法】

- 使用中または直後は引火するおそれがあるので、火気を近づけない。また、火気のある場所では使用をしない。
- 風通しの悪い密閉空間では大量に使用しない。

【廃棄時】

- 廃棄する場合は、「穴を開けず」に「完全に使い切って」廃棄するようにしてください。

